

ひとり情シスのIです。

本日は違法コピーソフトのお話です。

ソフトの不法コピーというと皆さんどう感じるでしょうか。ソフトが高いから必要悪という人、開発者に正当な報酬が支払われなくなるのでダメ、倫理的に問題があるとか、コピーしてただで使えるなら儲けものとか、色々考えがあるとは思いますが。ここでは倫理的な問題よりは、不法コピーソフトを使用することによるデメリットを書きたいと思います。

一つ目は、セキュリティリスクです。無料で改造されたソフトの中には、少なからずウイルスが仕込まれているものもあります。もともと有料であるソフトを、改造して無料で使えるようにするわけですから、それには特別な技術を持った人を雇うとか、手間やお金がかかるわけです。情報を奪取して売るとか、何か見返りがあると考えるのが普通です。

また、その手のソフトには、改造したモジュールが勝手に上書きされないように、アップデート機能を無効にする設定がされていたりして、これはセキュリティアップデートがいつまでも適用されずに残り、いつまでたっても弱いままです。

これはソフトでなく、OSの例ですが、何年か前にイギリスで期限切れのWindowsXP使っていた病院が、一時閉鎖を余儀なくされたこともありました。この画面をニュースで見た方もいるかもしれません。アップデートが提供されなくなると、こういうことも起こりえます。

<https://www.businessinsider.jp/post-33600>

二つ目は、PCメンテナンスに支障が生じることです。はるか以前に勤めていた職場では、クラック版（不法コピー版とほぼ同じです）を使用していたせいで、不具合が生じてもクリーンインストール等の手段が取れないことがありました。

例えば古いAutoCADのクラック版は、一度インストールすると、マシン構成と紐づいており、マザーボードを変えると動かなくなるということがありました。インストール時に使った不法キーは既に無効となっており、再インストールすらできなく、結局新しいバージョンを新規購入することになりました。

これは、PCに何かあっても、部品交換等のメンテナンスが実質出来ないということです。正規のソフトであれば、インストールキーが無効になることも無く、PCハードに不具合が発生し、再インストールが必要になった場合でも、安心して再インストールできます。

もっとも最近は、買い切りのソフトはだんだんと、サブスクリプション（使用期限付きのソフト）に変わりつつあり、あと4、5年もすると新規のソフトはほとんどすべて、サブスクリプション形式になると思います。

ソフトの不法コピーに限らず、はるか昔は誰も気にせず当たり前だったことが、今では問題になるという行為は数多くあります。倫理的な問題はともかく、会社のPCをメンテナンスする立場にある人は、こういうソフトがあることで、日々の作業に支障をきたしていると感じている人も結構いると思っています。

もし、そういうソフトがある会社の社長さんがこれを見ているのであれば、IT担当の人を助ける意味でも、正規版を買っていただければ幸いです。

それでは、また明日。(I)